

社 会 資 本 総 合 整 備 計 画

厚木駅周辺地区における魅力あるまちづくり

平 成 31 年 1 月 17 日

神 奈 川 県 海 老 名 市

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	海老名市	直接	海老名市	－	－	厚木駅周辺地区都市再生 整備計画事業	道路、広場（1.8ha）	海老名市	■	■	■	■		1,284		－	
												小計						1,284		
											合計							1,284		

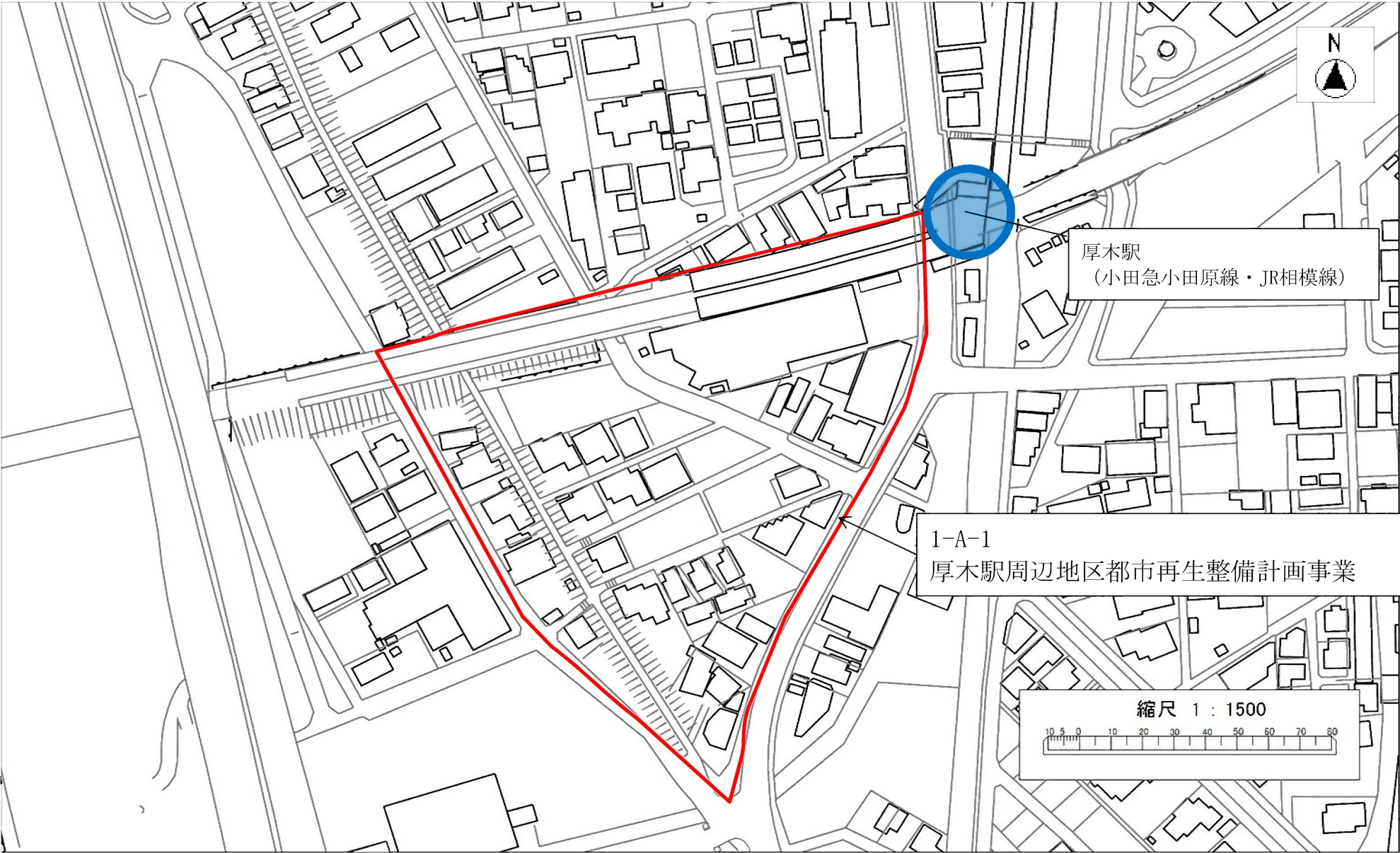
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H31	R02			
配分額 (a)	389	0			
計画別流用増△減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	389	0			
前年度からの繰越額 (d)	0	174			
支払済額 (e)	215	174			
翌年度繰越額 (f)	174	0			
うち未契約繰越額(g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

参考図面（社会資本整備総合交付金 市街地整備）

計画の名称	厚木駅周辺地区における魅力あるまちづくり		
計画の期間	平成31年度 ～ 平成34年度（4年間）	交付対象	海老名市



事前評価チェックシート

計画の名称： 厚木駅周辺地区における魅力あるまちづくり

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性	
②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性	
②地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性	
⑥円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

[illegible]

都市再生整備計画

あ つ ぎ え き し ゅ う へ ん ち く
厚木駅周辺地区
(第2回変更)

か な が わ え び な し
神奈川県 海老名市

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	神奈川県	市町村名	海老名市	地区名	厚木駅周辺地区	面積	1.8	ha							
計画期間	平成	31	年度	～	令和	4	年度	交付期間	平成	31	年度	～	令和	4	年度

目標 厚木駅南地区市街地再開発事業に合わせ、都市基盤等の整備を行うことで、アクセス性の向上、駅乗降客数の増加及び駅周辺の混雑緩和を図り、公共交通の利用と連携した中心市街地の賑わいの再生を目指す。
目標設定の根拠 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 本市では、総合計画の目標都市像「快適に暮らす魅力あふれるまち海老名」の実現を目指し、充実した鉄道網と拠点駅周辺に集積する都市機能の既存ストックを活用したコンパクトなまちづくりを進めてきたところであり、これまでの取り組みにより海老名駅周地域を中心とした商業系用途地域の指定により、市の中心核として様々な都市機能の集積が図られ、市全体の人口は年々増加している。 一方厚木駅周辺地区は都市計画上の拠点として位置付けられているものの、駅前広場が無く、拠点性が低いのに加え、地区内の居住者の高齢化や世帯人口の減少、小売店舗の閉店等により中心市街地としての賑わいの再生への取組みが求められている。 このことから、本地区を地域交流拠点として位置付けた「立地適正化計画」の策定により、本地区を都市機能誘導区域及び居住誘導区域に設定し、都市機能誘導区域の核として拠点性を高めるための整備が求められている。
まちづくりの経緯及び現況 厚木駅周辺地区は、元より暮らしにうるおいを与える魅力ある生活利便施設が少なく、駅周辺に住民や来街者の交流スペースもない状況に加え、地区内の居住者の高齢化や世帯人口の減少、自動車学校の移転による来街者の減少などに伴い、平成22年に小売店舗が閉店してからは日常の食料品の買い物にも不便な状況となり、地域の魅力がより一層低下し続けている。また、地区内の道路幅員が狭く、災害時の避難経路の確保や緊急車両の通過に支障をきたす等、防災上の課題がある。さらに、駅前広場も未整備であることなどから、駅へのアクセス性が悪いため、最寄りの厚木駅を利用できず、周辺道路への路上駐車による渋滞・事故の発生要因にもなっている。 一方、小田急小田原線及びJR相模線の2線が乗り入れており、1日に延べ約35,500人(小田急小田原線 約21,000人、JR相模線 約14,500人)の乗降客数が利用する市内で3番目に乗降客数が多い駅であり、新宿には約60分、横浜、橋本などの県内の主要都市へ約45分でアクセスが可能と地区の強みである交通結節機能を有する地区である。 そのため、市では都市マスタープランにおいて、本地区を市街地再開発事業等の手法により、土地の高度利用化や商業・業務・居住機能の集積、道路整備等による市街地環境の改善を図るとともに、日常的な生活を支援する機能の集積を誘導し、公共交通の利用と連携した中心市街地の賑わいの再生を図る。
課題 ・地区内の道路幅員が狭く、駅前広場も未整備であることから、最寄りの厚木駅を利用できず、周辺道路への路上駐車による渋滞・事故の発生要因となっており、駅へのアクセス性向上を目的とした都市基盤の整備が必要とされている。 ・駅周辺の居住者の高齢化や人口の減少及び商業施設の閉店等に伴い、駅周辺の賑わいが失われている。
将来ビジョン(中長期) 本市では、都市マスタープランにより、まちづくりの目標を以下のとおり定めている。 【基本目標1】まちの賑わいや元気を実感できる都市 【基本目標2】安全で安心感のある都市 【基本目標3】誰もが暮らしやすさを実感できる都市 【基本目標4】自然や歴史の魅力があふれる都市

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。							
都市機能配置の考え方 ・さまざまな都市機能が集積している海老名を中心とした【中心核（一次拠点）】と、今後中心だけでは収用しきれない都市機能の受け皿となる【地域核（二次拠点）】を併用し、機能集積を図りながら、市民が暮らす場よりコンパクトにまとまりのある居住地に集積することで、効率的に都市基盤、交通基盤を維持できる配置とする。 ・厚木駅周辺は地域核に位置付けられ、高いサービス水準が保持された鉄道を活用し、周辺の市民が通勤・通学を含めた様々な活動で集まることができ、またその移動経路上で買い物等の立ち寄りができるよう、生活必需機能等の集積を図る。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 ・本地区を市街地再開発事業等の手法により、土地の高度利用化や商業・業務・居住機能の集積、道路整備等による都市機能の整備、改善を図るとともに。民間事業者による商業の誘致等により、利便性の向上及び賑わいの創出を図る。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 ・厚木駅南地区第一種市街地再開発事業 厚木駅南地区は、小田急小田原線及びJR相模線の厚木駅前にありながら、居住者の高齢化や世帯人口の減少に伴い、小売店舗の閉店や商店の疲弊が進行し、地区内には老朽家屋や空閑地が存在している。また、地区内の市道や私道の幅員も狭く、駅前広場も未整備であるなど、公共施設整備に併せた土地の有効利用が望まれている。 このため、当地区においては土地の合理的かつ健全な高度利用による商業及び居住機能等の集積、道路及び駅前広場の整備による市街地環境の整備を図り、地域交流拠点として駅前の市街地に相応しいまちづくりのため、第一種市街地再開発事業を施行する							

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
アクセス性の向上	%	市民(海西地域)の自宅から厚木駅へのアクセス性(移動時間短縮や通行空間の快適性向上等)に対する満足度	厚木駅までの道路環境改善等によるアクセス性の向上	74.4	H29	76	R5
賑わいのある空間の創出	人/日	厚木駅(小田急小田原線・JR相模線)の乗降客数	公共施設整備等により駅利用者が増加し、賑わいが創出	35562	H28	38000	R4
駅周辺の混雑緩和	台/時間	厚木駅付近の県道43号への一時停車台数(ピーク時間)	駅前広場整備等により県道への一時停車が減少し、駅周辺の混雑が緩和	30	H30	0	R4

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
厚木駅周辺地区(第一回変更)	・アクセス性の向上や安全・快適な空間の形成を図る。	【基幹事業】 道路:市道15号線歩道整備事業、(仮称)駅前線新設整備事業、市道387号線拡幅整備事業 地域生活基盤施設(広場):厚木駅南地区駅前広場整備事業 【関連事業】 厚木駅南地区市街地再開発事業
	・駅乗降客数を増加させ、地域の活性化を図る。	【基幹事業】 道路:市道15号線歩道整備事業、(仮称)駅前線新設整備事業、市道387号線拡幅整備事業 地域生活基盤施設(広場):厚木駅南地区駅前広場整備事業、厚木駅南地区広場整備事業 【関連事業】 厚木駅南地区市街地再開発事業
		【基幹事業】 道路:市道15号線歩道整備事業、(仮称)駅前線新設整備事業、市道387号線拡幅整備事業 地域生活基盤施設(広場):厚木駅南地区駅前広場整備事業 【関連事業】 厚木駅南地区市街地再開発事業
その他		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

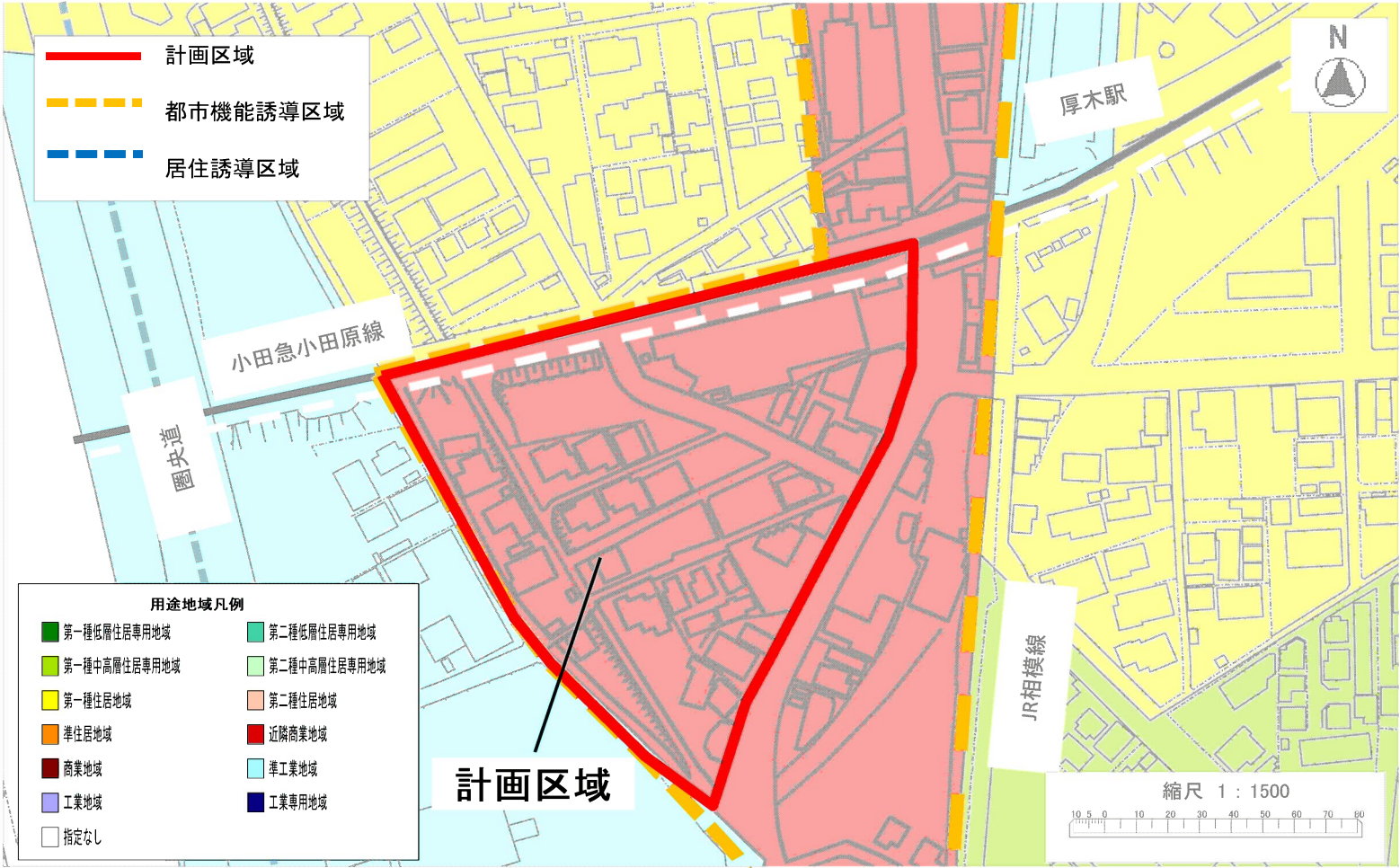
...A

...

08 200

厚木駅周辺地区(神奈川県海老名市)	面積	1.8 ha	区域	海老名市河原口一丁目の一部
-------------------	----	--------	----	---------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



厚木駅周辺地区(神奈川県海老名市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	厚木駅南地区市街地再開発事業に合わせ、都市基盤等の整備を行うことで、アクセス性の向上、駅乗降客数の増加及び駅周辺の混雑緩和を図り、コンパクトで魅力的なまちづくりを目指す。	代表的な指標	アクセス性の向上 (％)	74.4	(平成29年度) →	76	(令和5年度)
			賑わいのある空間の創出 (人/日)	35562	(平成28年度) →	38000	(令和4年度)
			駅周辺の混雑緩和 (台/時間)	30	(平成30年度) →	0	(令和4年度)

